

1～2 面：はたらく女性の中央集会、日本母親大会への参加
3 面：日本母親大会省庁要請、12・8 武器はいらぬ母親全国連鎖行動

第 66 回はたらく女性の中央集会 第 66 回日本母親大会 in 沖縄

開催！

第66回 はたらく女性の中央集会

第 66 回はたらく女性の中央集会是 10 月 23、24 日に都内の会場においてオンライン併用で開催されました。23 日（土）は 3 分科会「知って守ろう 女性の身体、女性の権利」「コロナ禍でみえた女性たちの現状」「仕事も生活も大切に自分らしくいきる」と2つの見学分科会「樋口一葉を訪ねる文学散歩」「寅さん記念館と山田洋次ミュージアム」、24 日（日）は全体会が行われ、延べ 554 人が参加・視聴しました。

全体会の記念講演は、名城大学准教授の箕輪明子さんが「ジェンダー平等—誰もが働きやすい社会の実現のために—」と題して行いました。

第 67 回はたらく女性の中央集会是 2022 年 11 月 19～20 日に大阪で開催予定です。



女性協スタッフの感想(抜粋)

<第 1 分科会>

女性の身体について、知っていたはずの事も、医療が進んでいるので改めて学ぶとちょっと簡易的になっている医薬品や制度などを再確認でき、前より進んでいるものの理解など、自分目線だけでなく、娘のため、母親目線でも学ぶことができました。

<全体会記念講演>

箕輪先生の講演を聞きたいと楽しみにしておりました。「コロナ禍で女性の問題が露呈、顕在化した」「資本主義は女性差別で発展してきたと言ってもいい」「ジェンダー平等にはトータルな政策が必要であり、分断を作り出すのではなく、連帯を作り出す政策が必要」という言葉が印象的でした。

第66回日本母親大会 in 沖縄

第66回日本母親大会 in 沖縄は11月13日、初めてオンラインで開催されました。エイサーや琉球舞踊、戦跡など沖縄の文化、歴史に触れ、岸田政権が進める米軍辺野古新基地建設などに反対するたたかいを学び、熱い連帯の思いを一つにしました。

1万2000人超が視聴。沖縄戦の戦没者の遺骨が眠る土砂を新基地建設に使うな、南西諸島の軍事要塞（ようさい）化反対などの「沖縄のたたかい」が現地沖縄から直接訴えられました。

沖縄県の仲山忠克弁護士が「生命の尊厳が保障される社会をめざして」と題して記念講演。自民党政権の改憲策動は非戦国家から戦争国家への国家改造計画だと告発し「生命の



尊厳を保障するために憲法9条を死守し、改憲策動に終止符を打つことは喫緊の課題です」と語りました。

第67回日本母親大会は、2022年10月15日に分科会をさいたま市内中心に、16日に全体会を群馬県高崎市 G メッセ群馬で開催予定です。

女性協スタッフの感想(抜粋)



母親大会はオンライン開催となりましたが、開始前から沖縄の音楽が流れたりエイサーの映像など沖縄の空気を感じることができる大会でした。仲山弁護士による記念講演では戦争とは、平和とは、ということを考えさせられる内容。戦時中、沖縄では4人に1人、激戦地では2人に1人が亡くなったというお話もあり、大事なものは「誰の子どもも殺させない」という一言にも重みがあるのだと感じました。現地視察予定地の写真だけでも胸を打つものがありましたが、いつか沖縄の地で平和学習ができたらと思います。

仲山弁護士の記念講演では、戦争史、憲法の制定、日米安保、沖縄米軍基地問題など多岐にわたる課題を、丁寧にお話しいただきました。

最後に、いつの時代も、「命どう宝」で女性が、母親が平和を求めたたかってきたことが、語られ、改めて平和への思いを強くし、粘り強い運動をしていかなくてはいけないことを、実感しました。

母親大会省庁要請行動

日本母親大会実行委員会は11月25日、第66回日本母親大会決議に盛り込まれた母親・女性たちの要求実現を求めて各府省への要請行動を行い、女性協は、内閣府要請に参

加しました。要請では▽女性差別撤廃条約選択議定書の早期批准▽選択的夫婦別姓制度の導入▽あらゆるハラスメントを禁止する立法措置▽「意思決定機関に3割の女性を」の目標を政治・公的分野で早期に達成すること▽強制性交等罪の「暴行・脅迫」要件、準強制性交等罪の「抗拒不能」要件の廃止などを求めました。



性交等罪の「抗拒不能」要件の廃止などを求めました。



12・8 武器はいらぬ母親全国連鎖行動

太平洋戦争開戦から80年の12月8日、日本母親大会連絡会は「武器はいらぬ 核もいらぬ12・8平和を守る母親全国連鎖行動」を全国各地で行いました。

東京では、氷雨の降りしきる中、日本母親大会連絡会と東京母親大会連絡会が有楽町マリオン前と御茶ノ水駅前で行った。戦時中の召集令状（赤紙）を模したピラを配布し、平和を守るリレートークを行いました。

女性協からは、有楽町マリオン前の宣伝にスタッフ3人が参加し、岡田はるなさん(全経済)がリレートークに参加しました。発言内容(抜粋)は以下の通りです。

「戦争が開始された日には『気象報道管制』が実施され、天気図、天気予報は一切公表されなくなり、当時の測候所の職員は市民に天気を聞かれても何も答えることはできなくなりました。また、気象情報だけでなく、台風の進路や地震、津波の被害も『軍事機密』とされました。天気予報などの気象情報は、戦争遂行のためには必要不可欠な情報であり、戦争中には、少しでも自国を有利にするため、自国の気象情報を隠し、一方で相手国の気象情報の入手をこころみました。これは、昔の話ではなく、今でも状況は同じです。昨今の日本での気象情報は国内だけでなく世界各地の気象情報も入手できます。今の時代が、日本が平和なので出来ることであり、『平和の証』です！」



編集後記

今号は、はたらく女性の中央集会、日本母親大会の特集となりました。女性協はさまざまな女性団体と協力し集会成功に向け奮闘しました。両集会は各県においても開催されています。是非皆さんも機会があれば、集会や実行委員会に参加して国家公務の現状や自分たちの働き方等を話していただければと思います。(e)